

プログラム名	<h1>自然からのエネルギー ：エネルギーっておいしいの？</h1>	
実施団体	<p>○団体名：宮城教育大学 Science Support SPINOZA ○代表者名：内山 哲治 ○電話：022-214-3410 OFAX：022-214-3410 ○住所：仙台市青葉区荒巻字青葉149 宮城教育大学 教育学部 理科教育講座 物理学教室 内山研究室気付 OE-Mail : tetsu-u@staff.miyakyo-u.ac.jp</p>	
対象者	小学生（高学年）、中学生、高校生、成人	
対象人数	40人程度（1クラス相当）まで	
学習場所	理科室または教室（晴天時は、校庭など太陽光が利用できるところで行うことがある）	
学習時間	1時限（45分）だけ、または2時限（90分）で調整可能。 1時限目：エネルギーってなに？ 2時限目：エネルギーには「おいしい」と「まずい」	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	実験装置（内容によって変更あり）、パソコン
	利用者側	プロジェクターおよびスクリーン（または大型モニター）、筆記用具、ノート
事前打ち合わせ	実施の二週間程度前（エネルギーに関する学習状況を知りたいため）	
効果的な学習段階	学習段階に応じて内容を調整するため、理科や技術などの各分野における体験学習として効果的	
学習概要	<h3>1. 学習のねらい</h3> <p>(1) エネルギーという言葉は日常生活でよく聞かれる。しかし、あいまいに理解し、使用していることが多い。そこで、日常生活および簡単な実験を通して、エネルギーと呼ばれるものについて考え、その共通項からエネルギーの本質を見つける。また、エネルギーには種類があること、およびそれらは変換できることを見つける。 (エネルギー変換の例：光→熱（太陽熱温水器など）、運動→電気（モーターなど）、化学反応→熱（火など）)</p> <p>(2) 日常生活や簡易実験で見られるエネルギーを分類し、エネルギーは最終形態（熱）があることを見つける。この過程で、使えるエネルギーと使えないエネルギーがあることを知り、エネルギー効率という概念の有用性を知ってもらう。また、エネルギー効率から、3E（省エネ・創エネ・蓄エネ）について考える。</p>	
学習概要	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	<h3>(1時限目) エネルギーってなに？</h3> <p>(1) 私たちの生活とエネルギーの歴史 ①人や動物（家畜）の労働 ②火による調理、水位を利用した灌漑（四ツ谷用水）など ③18世紀後半の蒸気機関の発明、電気・磁気の研究 ④電気を中心とした産業革命 ⑤光・水位・風力や化学変化などの自然エネルギーによる電気生成 等 パワーポイントを用いて、私たちとエネルギーの歴史を振り返る。</p>	
	<p>(1) 歴史を振り返り、<u>私たちの生活</u>には、エネルギーが関係してきたことを知る。エネルギー利用が生活に密着していることを知る。</p>	
学習概要	<h3>(2時限目) エネルギーには「おいしい」と「まずい」がある！</h3> <p>(3) 分類したエネルギーを詳しく見る ・子供たち同士で話し合って、エネルギーの特徴を考えもらおう。 ・特に、熱とはなにか？を気体の分子運動実験器や子供たちの実演を通して考え、見えないミクロな世界を想像してもらおう。 ・熱の考察から、エネルギーの種類の中には、使えるエネルギーと使えないエネルギーがあることを、より身近に感じるよう「おいしい」と「まずい」に分ける。</p> <p>(4) エネルギーの比較 「おいしい」エネルギーと「まずい」エネルギーを比較することによって、子供に身近な損得勘定として、エネルギー効率を取り上げる。</p> <p>(5) 3E（省エネ・創エネ・蓄エネ）の再考 エネルギーの損得勘定（エネルギー効率）を通して3E（省エネ・創エネ・蓄エネ）を見直し、日常生活に役立たせる。</p>	
	<h3>4. 学習のまとめ</h3> <p>○日常生活をよく見直すことによって、エネルギーの種類を知る。 ○多くの実験を通して、エネルギーの変換を知る。 ○エネルギーはどれも等価ではないこと、および、熱エネルギーの特異性を知る。 ○3E（省エネ・創エネ・蓄エネ）の実践のために、何が必要かを考えるようになる。 ○私たちの生活とエネルギーの関係を考えるようになる。</p>	
	追加・変更できる学習内容	○エネルギーに関する簡易実験の追加は随時考え、更新する予定です。
	事前・事後学習についての助言	○マスコミに踊らされないで、自分の日常生活をよく見て、自分で考える癖をつけていく。 ○利用者からの問い合わせに関しては、随時支援します。
	雨天時の学習内容	○集光実験は、屋外の太陽光（擬似平面波）ではなく、屋内の蛍光灯（非平面波）でも、自作パラボラで一点に光を集めることができた（ただし、熱は感じられない）。したがって、屋内でも可能と考えている。
<p>(2) 科学の芽：エネルギーの種類を挙げて、お互いに変換することを理解する。</p> <p>(3) 科学の茎：グループで話し合って、考えるという体験をしてもらう。また、確認の実演や実験をしてもらう。</p> <p>(4) 科学の花：エネルギーの比較という概念を用いて、エネルギーはどれも等価ではなく、私たちにとって損得（エネルギー効率）があることを見つけてもらう。</p> <p>(5) 学習内容から日常生活への振り返りを行う。エネルギー効率を通して日常生活的なエネルギーについて考える。</p>		